

読む医療 専門医が語る現代病気事情

最終回「がん治療の主役は自分」

1年間にわたり、がんに関する基本的な知識について連載をしてきましたが、今回が最終回になります。そこで、今回はまとめとして、がんに関してとくに強調したい点を記したいと思います。

がんの原因は、環境、生活習慣、感染、体質などです。食生活の欧米化とともに大腸がん、乳がんなどが増加したのがよい例です。喫煙も知っての通り、タバコの煙の中には発がん物質が含まれています。時々、「自分は何十年もタバコを吸っているが、がんにもかからず元気に過ごしているから、

.....

◇執筆者紹介 Ⅱ宮下正夫／日本医科大学消化器外科教授／日本医科大学千葉北総病院副院長 外科・消化器外科部長 医学博士／日本消化器外科学会指導医／日本消化器病学会指導医／日

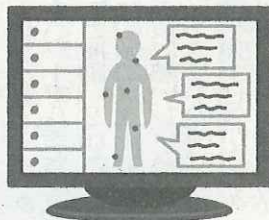


本がん治療認定医機構認定医／日本消化器病学会指導医。管学会胃腸科指導医。

検診で早期発見する努力も重要

タバコは、がんの原因ではない」と言われるご高齢の方がおられますが、これは全ての方には当てはまりません。このような方は、たまたま、がんになりにくい体質をもっていただけに過ぎません。体質は持って生まれた遺伝子によって決まります。癌を患った人が多い家族と少ない家族があるのはそのような理由です。

同じ発がん物質を摂取しても、あるいはウイルス感染などがあっても、が



信頼できる専門医から充分に説明を受けましょう

信頼できる専門医と相談の上、納得して治療を

んが生じる場合とそうでない場合があるのはそのためです。自分には、がんが出来やすい条件が揃っていないかどうかを是非知っておくべきでしょう。

もっとも重要なことは「予防」ですが、次に重要なのは「検診」です。つまり、症状のない段階でがんを早期に見出す努力です。とくに、がんになり易い条件を備えている人はなおさらです。相応に進行したがんの患者さんの中には、しばしば、「今まで医者にかかったことがない」と自慢される方がいます。そのようなことのないように、症状がみられたら、すぐ医師に相談してください。

そして、治療は専門医のもとで十分な説明を受け、納得した上で受けるようにしましょう。不安な際は、別の医師のセカンドオピニオンを受けるのもよいでしょう。がん治療の主役は自分であることをよく認識して信頼できる医師とよい人間関係を築いた上で治療を受けて頂きたいと思えます。